

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500050		
法人名	社会福祉法人 緑風会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 いずみの里		
所在地	栃木県鹿沼市泉町2396-3		
自己評価作成日	令和4年7月15日	評価結果市町村受理日	令和4年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

泉町にて地域密着サービスを始めて14年目となります。ご利用者を始め、ご家族、地域の方々にもご利用しやすい場所となるよう職員共々笑顔と誠意ある対応が出来るように、心のゆとりを持ちながら努めているところです。コロナ感染予防により地域の方々との連携が薄くなりがちではありますが、地域の方々からお庭の草むしり等をして頂けたり、近隣の民生委員の相談窓口として対応しています。地域に寄り添える施設作りを心掛けています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、平成20年2月に開設された1ユニット9名定員のグループホームである。市中心部からほど近い北部の閑静な住宅地の中にあり、見晴らしもよく落ち着いて暮らせる環境にある。同建物内には小規模多機能型住宅介護事業所が併設されており、運営推進会議や避難・通報訓練を合同で行うなど連携が図られている。職員は、法人の理念である「気づき」と「尊重」を実践するため、事業所として毎年度目標を設定して取組んでいる。今年度は、「笑」をテーマに「利用者が笑顔になってもらえるケアの提供」「職員も笑顔になれる職場」を目指し、介護の質の向上、業務改善等に積極的に取組んでいる。コロナ禍のため地域との交流が難しい状況であるが、老人会から草むしりの支援をうけたり、中学生ボランティアと製作品の交換をするなど地域とのかかわりを大切にしている。また、家族等との面会も制限される中で、ビデオ通話を活用し利用者の近況を写真を添えて報告するなど関係継続の支援にも努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和4年9月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆとりと潤い、輝く笑顔をモットーに、職員同士声を掛け合いながら、情報共有に努めている。	法人の理念を踏まえて、職員総意の事業所目標「輝く笑顔」を共有スペースやトイレに掲示して意識づけを図るとともに、職員の企画により年間行事の中に具体的に反映させるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。地域の老人会の方々からお庭の草むしりに来られる等地域交流を開所当時から行っている。民生委員等の相談窓口として対応している。	コロナ禍ではあるが、老人会の草むしりの支援を受けたり、中学生ボランティアとの製作品の交換を実施した。ハロウィンイベントには、近隣の仮装した子供達の訪問が予定されている。また、来年開設15周年行事で地域交流イベントを企画中である。	コロナ禍のため地域との交流が難しいところですが、開設15周年行事を含めコロナ以前のイベント等を工夫して、さらに交流を図ることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協力し、認知症に関する講座がいつでも開催出来るよう準備が出来ている。年に4回季刊誌を発行。地域に配布をして、理解を深められるようにしている。ホームページを随時更新している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を開く。コロナまん延時には書面でのやりとりを行う。市や地域の代表者に参加して頂き、当施設の現状を把握してもらうことで、地域からの協力が得られるように努めた。	コロナウイルスの感染状況を考慮して、書面と対面との会議開催を併用している。議題は、利用者の状況や活動状況、事故報告等である。議事録を作成し運営推進会議の関係者等に配布する事で理解を得られるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課の職員が運営推進会議に参加し、状況報告を行っている。地域包括支援センターや他居宅介護事業所とも連絡を密にし、介護が必要な方々に円滑に介護サービス等の情報を提供できるよう努めている。	市担当職員とは、運営推進会議を通して事業所の状況等について共有が図られている。また、通知文書や報告等を通し連絡を取り合っている。地域包括支援センターとは連携を密にして、介護情報サービス等を把握している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行い、周知徹底を図る。身体拘束をしない様、工夫をしながらケアをすすめていく。	身体拘束委員会を3か月に1回実施している。身体拘束等に係る事例等の勉強会を実施し、不適切ケアが行われていないか振り返り、身体拘束防止の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様虐待に関する勉強会を行う。日々の心身状況の変化を見落とさず、発見時は速やかに報告出来るよう対策を講じている。		

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となったご利用者はいないが、以前は成年後見制度を使用していた方が入所されていた。成年後見制度やあすてらす等のサービスの説明をご本人、ご家族へ行える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者、契約前に担当職員が説明をし、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時には必ず会話をもつように努めている。電話での連絡や相談も密に行えている。SNSを利用して現況を伝えている。	家族からの意見要望の把握は、通院・支払等での来所時や電話連絡時等に伺っている。また、利用者の状況は、SNSやブログでタイムリーな情報発信を実施しており、家族等から感謝のメールが届いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	令和3年8月より計画作成担当とセンター長が同職員が行うこととなり、ソフト面、ハード面の相談が円滑に行えるようになった。	日常業務を通じて職員の小さな気遣いは、メモにして情報ボードに貼り付け対応している。また、毎月1回実施している職員会議や年2回実施の人事考課面談時等においても職員の意見・提案を聞く機会を設け運営に反映している。職員の提案により、雑草対策として庭の一部を人工芝とした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を実施。職員一人ひとりが目標、反省を自己評価し、直属の上司と面接を行う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による研修や、事業所内での勉強会を行っている。法人外での研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者との情報交換を電話等で行なっている。相互訪問はコロナ感染予防により行えず。		

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	寄り添う時間を多くとり、言葉や様子から思いを把握し、安心出来るような声かけや環境作りに努めている。その為に、初期においては特に、気づいた事を、細やかに申し送りしたり、記録に残し職員間で共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族の不安や要望等をしっかりと聞き取るとともに、家族が知る本人の思いや嗜好を聞き取れるようにしている。また、施設での様子や対応の仕方等を伝えられるようにし、本人主体で共に支え合えるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い必要な支援内容を見極め、家族と本人の同意を得て実施している。サービス導入後の初期は支援内容の見直しを様子に合わせて臨機応変に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみ、食器拭き、食事作り、野菜の収穫、体操時の声かけなど、それぞれにあった、嬉しい気持ちで出来る事を見極め、やっていただく機会を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時には体調やご様子エピソード等を報告相談している。コロナ禍で家族の来所が減ったことを補うために、SNSを利用して写真を添えて様子を伝える事もしている。面会が出来ない場合は、リモート面会が出来るように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの流行で、感染予防対策により、馴染みの人と会える機会作りが出来ていない。	コロナ禍のため、事業所への訪問や外出に制限があり、馴染みの人や場所との関係継続が難しい状況にある。利用者の希望によりSNSのビデオ通話を通して馴染みの人との会話が出来よう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見極めつつ、職員がさりげなく間に入ることで、レクリエーションやお茶のみ、会話等が楽しめるよう支援している。		

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後の相談や、支援をする事例は無かったが必要に応じて支援する体制はある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話に加え、表情や仕草などから思いをくみ取り、それを尊重する意識で接している。暮らし方の希望、意向を書き留めるシートがあり、職員間情報を共有している。	職員は普段の支援の中で思いや意向を確認し、個人情報シートを活用して情報の共有化を行い、本人の希望・意向に沿った支援が出来るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	上記シートに生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等も記入し、職員間情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出勤時はそれぞれの職員が、一人ひとり挨拶しながら心身の様子を把握する機会にしている。その後、他職員からの申し送り内容をふまえ、一日の様子を観察し、把握出来るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	食事量やバイタル等を記入する観察ケア記録表に、ポイントとなるケアプラン実施をチェックする覧を作り、実施の様子を把握しやすくしている。月に1回モニタリングをし、本人や家族の意向を聞き取り介護計画作成に反映させている。	介護計画は、通常6か月ごとに見直し作成している。担当職員のモニタリング・観察ケア記録表及び本人や家族等の意見要望等を踏まえて、ケアマネージャーが作成している。必要に応じて、随時内容の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や、食事量やバイタル等を記入する観察ケア記録表で情報を共有しつつ、口頭での申し送り時に小さな気づきまで伝えあうことで、現状の把握が出来るよう努め実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調に配慮しつつ、食べたい、飲みたい、起きたい、寝たい、外に出たい等の希望があれば、臨機応変な対応を心掛けている。受診等も必要に応じて柔軟に対応している。		

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花見等で地域の自然豊かな場所に外出したり、地元で採れた梅や山菜を調理して食べて楽しむ機会をつくっている。学童や中学生との交流は、コロナ禍のため、手紙や手作りの物のやりとりを行えた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に添ったかかりつけ医にて医療が受けられるよう支援している。受診は基本的に家族同行で、その際はバイタルや食量などを記入した観察ケア記録表を渡し口頭でも様子を伝え、医師に様子が伝わるよう努めている。	利用者及び家族の希望に添った、医療機関への受診が家族の送迎で行われている。状況により、職員も同行することもある。受診時は、観察ケア記録・メモ等を渡し医師に利用者の生活・健康等状況を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同施設内の看護職員にバイタルや心身の状態を伝達し、変化があれば相談したり診てもらったりできる体制があり、適切に受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に病院関係者、家族と話し合う機会を作り、情報交換して、安心して治療が出来、早期退院が出来るよう関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケア指針の説明をし、同意を得て、重度化した場合や終末期の意向を確認している。2021年5月に1名看取りを行った。現在は1名、食事摂取量が減り体調不良が続くターミナルの話し合いを行った方がいるが、現在体調が安定している為、ターミナルケアを行っている方はいない。	本人が重篤化した場合や終末期については、入所時に本人・家族等に説明している。看取りを希望する場合は、医療的行為が必要である場合を除き、協力医と連携して実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設設置のAED使用方法の確認、急変や事故発生時の対応についての研修を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。近隣住民も緊急連絡網に入って協力を得られる体制を整えている。	年2回火災を想定した避難・通報訓練を実施している。近隣住民も緊急連絡網に入っており、協力体制を築いている。災害時の食料品等は3日分をロッカーに保管している。	

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切にし、利用者様にとって心地よく、温かい接し方が出来る事をチームの目標の1つに掲げ、取り組んでいる。	入浴や排泄介助の誘導時には羞恥心に配慮した声掛けに注意している。居室への入室時は、プライバシーを優先したノックや声掛け等を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを伝えやすいような信頼関係作りをし、自己決定出来るような声のかけ方を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の食事時間は決めてあるが、一人ひとりの様子に合わせて臨機応変に対応している。ある程度規則正しい生活になるよう手助けしつつ、入浴日、入浴時間、就寝、起床時間等決めずに、気持ちや様子に合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	少し手助けする事でひげそりや化粧水をつけるなどの身だしなみの習慣が維持出来るよう支援したり、洋服も選べる事が出来る方には選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、食器拭き、お菓子作りなど出来るだけ利用者と職員と一緒に出来るようにしている。しもつかれ、手打ちの年越しそば、草餅、山菜料理など、季節感のある馴染みの料理や菓子を一緒に作ったり、月に1回程度外注を楽しむ機会を作っている。	献立表は毎月当番の職員が作成している。朝・夕は職員の手作り、昼食は、外注した品を温めるなどして提供している。食材は、地元業者に発注し配達を依頼している。月に1回の出前の日やその他行事食等もあり利用者が食を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少なくなりがちの方は量をチェックしている。食事摂取量が少ない方は、好きな物や、栄養補助飲料を用意して、ご本人の負担無く栄養がとれるよう対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や食事後に口腔ケアを行っている。拒否がある方でも、最低1日に1回は行えるよう支援している。スポンジブラシで全介助で口腔ケアをする方が1人いる。		

指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツで自立排泄の方が1名おり、1日を通し紙オムツを使用している方が1名いる。その他、布パンツとパッドの方1名、紙パンツとパッドの方が6名いる。夜間のみ紙オムツを使用する方が4名いる。	排泄記録表を活用して、利用者の排泄状況を把握している。トイレでの排泄ができる利用者には継続出来るよう支援している。夜間は、5居室は室内トイレ、その他4居室は共用トイレ誘導による排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の摂取量や運動量に気をくばり、乳酸菌飲料を飲む方、下剤を飲む方と、個々に応じた対応により排便のコントロールが出来ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日を決めず、基本的に週2回、気持ちが向くときに入浴を支援している。菖蒲湯やゆず湯などの季節に応じた変わり湯を楽しんで頂くことがある。	入浴は、週2回実施している。利用者の希望により、日を決めず午前又は午後実施している。季節感を取入れた、菖蒲湯や柚子湯も実施しており、利用者がゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子に合わせて、就寝、起床の介助をしている。眠れない日は、職員と茶飲みしたり、話をしたりして気持ちが落ちつくのを待つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。薬が変更になればその都度職員間で伝達し合い、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の収穫、洗濯たみ、縫い物、料理等、それぞれの生活歴や力に合わせて気分良く出来る事を見つけて行っている。飴や菓子、飲み物など、それぞれの好みに沿って用意し、好きなときに楽しめるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの感染対策により外出が制限されたが、外部の方と接触しないような所へ花を見に行ったり、施設周辺を散歩したりする事ができた。	コロナ禍のため、日常的な外出は制限されている。晴れた日には敷地内散歩や中庭での外気浴等で利用者の気分転換を図っている。感染防止のため、外部接触を避けた場所へドライブすることも多少実施している。	



指定認知症対応型共同生活介護事業所いずみの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、常にお金を所持されている方はいない。買い物外出が出来なかったが、施設内に小さな店を開き、買い物を楽しんで頂く機会を時々作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と電話したり、手紙を書いたり、リモート面会が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共通の空間には必ず生花を飾り、利用者様と作り上げた季節感のある壁面装飾は欠かさないようになっている。明るく心地良い空間になるよう工夫し、利用者様が好むような音楽を時々流している。	共有空間は建物の中央部にあり、キッチンからリビング全体が見渡せる。利用者がテーブルやソファでゆったりくつろげる空間となっている。季節の花や利用者の作品が整理整頓され展示されている。清掃も行き届いており、清潔感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはコタツがあり、特に肌寒い季節には多くの方がそこに集まる。利用者様間の関係性に配慮しつつ好きな場所で過ごして頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	洗面台とクローゼットは備え付けで、家具は本人が居心地よく過ごせるよう、本人や家族と相談しながら持ち込んでもらっている。テレビを置いている方もいる。ベッドはレンタルされている方がほとんどである。	居室には、洗面台・クローゼット・エアコンが備え付けられており、5居室はトイレも付いている。ベッドを置いても十分な広さが確保でき、利用者は、自宅にあるものを自由に持込んで居心地のよい環境を作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内で、自力で動かれて転倒のリスクのある方が多く、現在8部屋にクッションマットを敷いている。5名の方が人感センサーを設置している。本人の動きたい意思を尊重し、さりげなく手助けするようにしている。		